

ミャンマー国鉄の研修員が JR東日本で研修中



上野駅でJR東日本の制服を着て駅サービスの研修を受けているコー・コー・チョウさん(左)とタン・リャン・モーンさん(右)。

JICAは鉄道の二丁ズが
高まるミャンマーでハード・ソフト両面からの協力を行っており、かねてから日本の鉄道事業者と連携した研修を実施してきた。これまでの研修は講義と現場視察を中心とした短期間のものが一般的だったが、9月17日に始まった「JR東日本国際鉄道人材育成研修」は、駅サービス分野3か月、線路メンテナンス分野6か月と、長期にわたって実務を通じた教育訓練を行う。これは、鉄道分野の研修として初の試みだ。

研修員は3人。上野駅で駅サービス業務を学んでいるコー・コー・チョウさんは、「日本で学ぶ夢が実現した。わかりやすい駅の案内表示をミャンマー国鉄に取り入れた」と意気込む。

ESG経営の一環として「国際鉄道人材の育成」を掲げるJR東日本では、今年4月にもベトナムから技能実習生を受け入れており、今回の研修はその第2弾にあたる。JICAが窓口となり、ミャンマーの二丁ズに合わせた研修をともに実現している。

*ESGは企業経営などにおいて環境、社会、ガバナンスの観点を重視する考え方で、SDGsとともに近年世界的に広まってきている。

ニュース深掘り! 今後の国鉄運営にきっと生かしてくれる

研修を通して、現場の社員が問題点に気づいて解決策を提案していくというJR東日本の改善の手法や、仕事に対する責任感といった企業文化を学ぶ機会もあることでしょう。日本での滞在期間に研修員が学び、感じ取ったものは、ミャンマー国鉄の運営と発展に必ずや生かされていくものと信じています。

技術・サービスの向上と鉄道設備の近代化が進められており、日本も複数の事業で協力を続けています。駅サービスや安全性の面では、自分たちでホームに案内表示を付けたら、人がなだれ込んでいた階段に上り下りを区分する線を引いたりするなど、少しずつ改善の意識が生まれてきました。しかし、線路を横切つてホーム間を移動してしまう人がいるなど、さらに安全への意識を向上させていく必要があります。これまでの老朽化した設備では列車もスピードを出せず本数も少ないため、サービスや安全への意識が大きく問題にならなかつたのかもしれない。しかし、日本も支援しているヤンゴン環状線の改修事業などが完了すれば列車の速度も上がり、利用者も増加します。そのため、今後設備が更新されていくなかで、安全に運営していきけるかどうか問われています。

兼 社会基盤・平和構築部
インフラ技術業務部
柴中雄仁さん
しばなかかつひと
大学院で建築学の修士号を取得後、東京地下鉄株式会社(東京メトロ)に7年間勤務し、地下鉄駅の改修事業などに携わる。2018年より同社からJICAに転出。「開講式では研修員が日本語でスピーチを披露してくれ、関係者の意気が揚がりました。」



JICA HEADLINE NEWS

10月 8日 | ▶ JICA専門家らが2019年「^{ゆうき}中国政府友誼賞」を受賞

中国の経済や制度、文化の発展に貢献した外国人に贈られる最高位の賞。JICAの専門家らが表彰された。

10月 7日 | ▶ 「JICA-高専イノベーションプラットフォーム」設置

高等専門学校や企業、NPOなど産官学の協働で、「オープンイノベーション」を推進。双方向の連携を加速化。

10月 4日 | ▶ 欧州投資銀行との協力覚書に署名

“質の高いインフラ”投資の推進ほか、持続可能エネルギーなどの分野で連携強化。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>